

	人材養成等教育研究に係る目的	卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
文学研究科	<p>文学研究科は、教育研究を行うにあたって、全人的な人格陶冶を根本とし、高度な専門知識を修得し学問研究を発展させることを基本理念とする。文学研究科では、学士課程教育で培われた専門的基礎能力を土台に、専門性の一層の向上を図り、国際規模でめまぐるしく変動する現代社会の諸問題に対して取り組み、解決策を提案できる能力を備えた高度で知的な素養のある人材の養成を目的とする。</p> <p>人間学専攻では、思想文化、社会倫理、認知行動を中心に、人間と現代社会の諸問題を人文科学的観点から研究する。</p> <p>英語教育専攻では、英語授業学、応用言語学、第二言語習得論、英語教材論、英語学、多文化教育論を専門的・実践的に研究する。</p> <p>人間学専攻では、政治、経済、技術等が国際規模でめまぐるしく変動する社会と人間が直面している諸問題を、人文科学的観点から分析し、論理力、判断力、倫理観、創造力を以て解決策を提案できる人材の育成を図る。</p> <p>英語教育専攻では、英語教育に関わる諸領域の高度な研究力、専門家としての高度な英語運用能力、多様な言語・文化観に対応する洞察力を培うことにより、高い指導力を備えた中学校・高等学校等の英語教員を始めとする英語教育の専門家や高い判断力・統率力を備えた国際交流の中核を担うグローバル人材の育成を図る。</p>	<p>文学研究科では、国際規模でめまぐるしく変動する現代社会の諸問題に取り組み、解決策を提案できる能力を獲得した者に学位を授与します。具体的には、次の者に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2年間の(長期履修生の場合には、3年または4年間の)学修により、教育目標に沿って設置された授業科目の修得をし、本研究科が求める高度な専門的知識や学問に裏付けされた高度職業人としての資質を備えていること。</li> <li>修士論文の審査に合格していること。</li> <li>人間学専攻では、人間の営みと社会の諸問題を分析していく高度な専門的知識に基づいた研究能力を有していること。</li> <li>英語教育専攻では、現代の英語教育に関わる諸問題を専門的・実践的に研究し、解決できる能力を有していること。</li> </ol>	<p>教育課程編成にあたっては、人材育成の目的や教育目標を達成するための体系的な教育課程を編成することを基本方針とし、学士課程教育との専門性と継続性に配慮し、学士課程教育における教育内容を基礎として、履修の順序に配慮しつつ、基礎から応用までを体系的に編成しています。具体的には、研究対象にアプローチするための基礎的なスキルについて学ぶ導入科目、各専攻の教育目標に応じた専門的知識を学ぶ専門科目、学外の場で実践的に学ぶ実践科目、修士論文の作成に向けた研究科目群を設けています。また、コースワークでは幅広い専門的文献に取り組み、プレゼンテーションを中心にした授業を通して専門職業人としての資質を養います。さらに、学生の教育・研究支援として、他大学・大学院の講師を招聘した特別講義の開催や、学生の学会参加・発表などの支援も行っています。</p> <p>特に人間学専攻では、人間の営み、及び社会の諸問題についての多角的に分析を行うために、思想、宗教、倫理、社会、教育、心理といった人文科学的幅広い学問分野の授業科目を配置し、最終的に、修士論文の作成を通して、教育目標が達成されるような教育課程を編成しています。</p> <p>英語教育専攻では、英語授業学、応用言語学、第二言語習得論、英語学、多文化教育論を中心に置き、現代の英語教育にかかわる諸問題を専門的・実践的な方法論を用いて研究することにより、体系的に学修できるように教育課程を編成しています。</p>	<p>文学研究科は、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な教養のある人材の育成を基本理念とし、高度職業人として社会に貢献する人材養成を教育目標にしています。</p> <p>人間学専攻・英語教育専攻ともに、それぞれの研究に必要な基礎的知識・技能を修め、明確な研究内容と進路計画を持つ学生の受け入れを基本方針としています。</p> <p>文学研究科の入学希望者はとりわけ以下の項目に応えられることを期待します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>高等教育に必要な知識・技能を有し、それを活用できる能力を証明できること</li> <li>修了後のキャリア目標について、明確に説明ができること</li> <li>研究に必要な十分な英語力を有していること、またそれを証明できること</li> <li>明確な研究計画を持ち、それを説明できること</li> <li>自律的に研究を行う態度・資質があること</li> </ol>

	人材養成等教育研究に係る目的	卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
農学 研究科	<p>農学研究科は、その教育研究の目的を、栽培植物、動物、森林、微生物の諸機能を生物学的および化学的に解明し、それらの資源生物としての改善、生産性の向上を図ることとし、いまだ未利用の生物資源や新しい機能の開発・応用ができる研究者、技術者の養成を目指す。</p> <p>「農学＝農業のための学問」の時代は終わり、農学のフィールドはヒトと生命、そして地球環境という壮大なテーマに開かれているとの認識に立ち、生命、健康、食糧、エネルギー問題など山積する課題の解決者となってほしいからである。またその際、生物資源と環境動態の知識に裏打ちされた「地球共生系」の考えを重視、リサイクルや地球環境の保全に配慮し、先進のバイオテクノロジーに対しても、倫理観のある応用ができる人材の養成に努める。</p>	<p>(修士課程)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的思考過程を経て、物事の結論を導くことができる能力を備えている。</li> <li>・自然科学を深く理解し、技術者、研究者、教員に必要な専門知識を備えている。</li> <li>・技術者、研究者、教員に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また科学英語の基本を備え、英語による文章表現ができる能力を備えている。</li> <li>・教育職員専修免許状(理科、農業)取得者は、中等教育機関の現場で求められる高度な知識と技能を備え、時代を担うリーダーを育成できる能力を備えている。</li> <li>・リサイクルや地球環境の保全に配慮し、また、バイオテクノロジーの利用に関して、正しい倫理観を備えている。</li> </ul> <p><b>学位審査の基準</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所定の単位修得認定</li> <li>2. 学位論文の提出(英文要旨を含む)</li> <li>3. 主査および副査による論文審査と審査評の提出</li> <li>4. 公開の修士論文発表審査会(発表20分間、質疑応答10分間)</li> <li>5. 第2研究科会でのMマル合教員による投票で学位授与可否を審査する。</li> </ol> <p>(博士課程後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的に活躍する技術者、研究者として、あるいは大学教員として自立する準備ができています。極めて高度な知識と新たな分野を創造できる能力を備えている。</li> <li>・国際的に活躍できる英語によるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、また、英語科学論文を書く能力を備えている。</li> <li>・博士論文研究の直接の指導教員とは異なる博士課程後期担当教員の指導下での研究経験を持つことが好ましい。</li> </ul> <p><b>学位審査の基準</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所定の単位修得(見込)認定</li> <li>2. 予備的検討会において主査、副査、研究科長、研究科教務担当の合議により、博士論文提出を許可されること(必須条件:予備的検討会までに、研究内容の全部あるいは一部が英文学術論文(1編以上)として査読のある学術雑誌に受理(掲載見込)されていること)</li> <li>3. 博士論文の提出(和文要旨、英文要旨を含む) 目的が明確であり、実験手法が適切であること。学内の倫理規定をクリアしており、統計的解析法も適切であること。実験結果についての考察がすぐれていること。引用文献はただしく記載されており、引用の範囲も適切であること。図表を含む他の文献類からの引用は書面で著者の許可を得ること。</li> <li>4. 公開の博士論文発表審査会(発表60分間、質疑応答30分以上)</li> <li>5. 第3研究科会においてDマル合教員による投票で学位授与可否を審査する。</li> <li>6. 学位論文の公開学位論文は本学のリポジトリにおいて学位論文の全文を公開する。</li> </ol>	<p>(修士課程)</p> <p>資源生物学に関する深い専門知識を得るためのコースワークを整備します。また、高度な実験技術と問題解決能力を身につけるための実験研究課題に取り組み、研究成果を修士論文として提出、発表することを義務づけます。さらに、大学院共通科目として研究倫理、英語によるプレゼンテーション科目などを提供します。</p> <p>科学研究の報告文を英語で書くための科目「科学英語表現」は必修とします。教育職員専修免許状(理科、農業)取得を目指す学生は、幅広い知識を身につけるための講義科目を履修することができます。</p> <p>このほかに、TA、RAとして教育や研究のアシスタントとしての経験を提供します。課程在学中に少なくとも1回は研究成果の内容を学会発表することを推奨します。</p> <p>(博士課程後期)</p> <p>各自の研究課題にさらに深く取り組むことにより、国際的に活躍することのできる、より高度な研究能力と問題解決能力を身につけられる特別研究科目を提供します。研究指導教員以外の博士課程後期担当教員による実験指導をあわせて受けることを望みます。</p> <p>3年次に博士論文予備的審査会を実施し、博士論文執筆作成に導きます。国際学会での発表、英語による学術論文の投稿等の学術発表を奨励します。なお、英語による学術論文1編以上が予備的審査会までに学術雑誌に受理されていることが博士論文提出の条件です。</p>	<p>農学研究科では、私たちの食料や生活の資源としての生物、生命現象に深く興味を持ち、大学院で学んだ知識と技能を社会に還元する意欲を持った学生の入学を望みます。</p> <p>(修士課程)</p> <p>専門知識や外国語を含む理系系大学卒業レベルの学力を有し、かつ知的好奇心が旺盛で、研究意欲にあふれる学生を望みます。教育職員専修免許状(理科あるいは農業)取得を目指す学生も歓迎します。</p> <p>(博士課程後期)</p> <p>研究者または高度専門技術者として、新しい分野の研究開発に自立して取り組む意欲と能力を備え、国際的に活躍できる人材を望みます。</p> <p><b>入学者選抜に関する方針</b></p> <p>大学院課程の入学者選抜においては玉川大学大学院【人材育成の目的】に記載した目的に合致する学生を受け入れます。</p> <p><b>入学者選抜方法</b></p> <p>(1) 入学試験は次のいずれかの方法により実施します。 ★本学農学部学士課程から農学研究科修士課程への進学における学内推薦入試 本学の農学研究科修士課程から農学研究科博士課程後期課程への進学における学内推薦入試(一定の成績以上でない受験できません) ★一般入試</p> <p>(2) 入学者選抜の方法は以下によります。 ★書類審査(研究計画書、課題解説、卒業論文要旨(博士課程後期課程においては修士論文要旨)、成績証明書) ★学力試験 (i)筆答試験:英語(学術英語文章の和訳)、専攻研究分野研究指導担当教員によるキーワード提示に対する回答(博士課程後期のみ) (ii)口述試験:専攻研究分野研究指導担当教員による提示キーワードに対する回答(修士課程) ★面接(志望動機、学習意欲等、一般入試においては口述試験と同時に行う) ★博士課程後期課程においては修士論文および研究計画のプレゼンテーション</p>

	人材養成等教育研究に係る目的	卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
工学研究科	<p>工学研究科は、工学の視点に立ち、人類が抱えている諸問題を克服し、知識基盤社会を多様に支えることのできる高度な専門性と豊かな人間性、社会性、グローバルな視野を備えた研究者・技術者・教育者を育成することを目的としています。</p> <p>修士課程においては、学部で培われた基礎知識と学力を基礎に、機械工学専攻では材料加工システム・環境エネルギー・経営システムの各分野について、また、電子情報工学専攻では、量子情報・メディア情報・ロボティクスの各分野について、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力またはこれに加えて高度の専門的な職業(中学校・高等学校の教員を含む)を担うための優れた能力を培う教育研究を展開します。</p> <p>また、博士課程後期においては、修士課程の教育研究分野をさらに高度化したシステム科学専攻の各分野(量子情報科学・知能情報科学・ロボティクス・生産開発システム・環境エネルギー)について、研究者として自立して研究活動を行うことができる高い専門性が求められます。社会で活躍し得る高度な研究能力とその基礎となる学識を養う教育研究を展開します。システム科学専攻では、学生が修了後の進路を踏まえ、各自の興味と関心に応じた体系的な学習のための科目履修が可能となるような教育プログラムを編成・実践し、きめ細やかな履修指導のもと、学位授与へと導きます。</p>	<p>工学研究科は、工学の視点に立ち、知識基盤社会を支えることのできる高度な専門性と豊かな人間性、社会性、グローバルな視野を備えた研究者・技術者の育成を目的としています。</p> <p>修士課程では2専攻に人材育成6分野および工学基礎院科目群を置いて幅広い学識と専門能力の涵養を図り、技術者としての問題解決力をもつ人材を養成します。</p> <p>技術者としての問題解決能力を育むために設定された教育課程から30単位以上を修得し、特定分野において深い学識と研究開発能力を獲得した者に対して、修士の学位を授与します。</p> <p>また、博士課程後期システム科学専攻では、修士課程の教育研究をさらに高度化して、知識基盤社会において研究者あるいは高度の技術者として自立して研究開発を行える人材を育成します。</p> <p>自立した研究者を育むために設定された教育課程から18単位以上を修得し、特定分野において最先端の研究を実施して研究能力を獲得した者に対して、博士(工学)の学位を授与します。</p>	<p>修士課程においては、学部で修得した基礎学力・基礎知識・倫理観を確実に身につけさせ、さらに発展させることで、各分野による人材育成を行っています。</p> <p>機械工学専攻には材料加工システム、環境エネルギー、経営システムの3分野、電子情報工学専攻には、量子情報、メディア情報、ロボティクスの3分野を配置し、各分野で教育課程の単位を取得することで、その分野に必要な基礎的知識と実践能力が一通り身につくコースワーク科目群を用意しています。</p> <p>特に特別演習Ⅰとインターンシップは、学生の技術的実践力の強化を、Research Presentationは英語力の強化を目指した科目です。必修となっている修士論文のための研究をとおして、研究開発の基本を学びます。</p> <p>また、機械工学専攻および電子情報工学専攻では高等学校教諭専修免許状(工業)、電子情報工学専攻ではそれに加えて中学校・高等学校教諭専修免許状(数学)の課程を設置します。これらの課程では、教育内容・方法学研究など教職に関する科目を必修とすることで、専門知識だけでなく教育能力の向上も支援します。</p> <p>博士課程では、研究能力の涵養のため、研究サーベイ、研究企画・方法論、分析・モデリング、論文構成・表現法という研究要素技能の訓練と、それらを統合して研究ディスカッションを行う訓練としてのセミナーの科目を用意しています。</p> <p>これらに加えて、各専門領域の先端的講義および外部講師による特別講義を加えることで、知識領域を新たに開拓するための研究方法を学びます。</p>	<p>大学4年間での学習をとおして得られる基礎力は、本研究科でより進んだ学習と研究を行うための基盤です。</p> <p>また、日本語や英語などのコミュニケーションは技術者として問題解決にあたる際の不可欠な手段です。入学試験では、各専攻において基盤となる科目および英語についての口述試験を行い、その力を確認のうえ判定します。</p> <p>博士課程後期では、先端研究を遂行するために必要な学力や語学力が必要ですが、それと同時に新たな知識を開拓する気概が求められます。</p> <p>入学試験では、専門知識・語学力と同時に口述試験で研究遂行に必要な主体性を評価します。</p>

	人材養成等教育研究に係る目的	卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
マネジメント研究科	<p>マネジメント研究科は、教育研究上の目的として、経営学・会計学を中心としたマネジメントの教育と研究を深化させ、特に社会環境の変化に柔軟に対応ができる高度な経営管理能力を養わせることを目指している。</p> <p>修士課程においては、経営学部国際経営学科と観光学部観光学科における学士課程での教育による基礎的能力を土台に、専門性を一層向上させていく。</p> <p>マネジメント専攻では、グローバル・マーケティング研究、会計学研究、グローバル・ツーリズム研究、スクール・マネジメント研究の4領域を中心にマネジメントに関する教育研究を進める。</p> <p>特に、人材の育成に関しては、主体的に変化に対応し、幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下して問題を解決するマネジメント能力と、社会の発展に寄与していく高い志と識見を持った高度な専門職業人の養成を目的とする。</p> <p>これを達成するために、修士課程においては、学部教育で培われた基礎能力と学力を基礎に、マネジメント専攻において、営利企業や非営利組織におけるマネジメント活動に必要な各経営機能を学ぶとともに、それらを統合する能力や応用力、さらには経営環境に対する感性や洞察力、実践力を身に付けた人材の育成を目指している。</p> <p>したがって、本研究科では、上記の教育理念に基づき、また学生が終了後の進路を踏まえ、各自の目標に応じた体系的な科目履修が可能となるよう教育プログラムを編成・実践し、本研究科の意図する専門職業人の養成の目的を効果的に達成するよう配慮している。</p>	<p>マネジメント研究科の各コースの課程を修了し、「修士論文」または「課題研究」を提出し、その審査および最終試験に合格した者に「修士(マネジメント)」を授与します。</p> <p>修了者にはコースごとに以下の能力を修得していることが求められます。</p> <p>グローバル・マーケティング研究コースでは、主として経営戦略や中小企業経営を、世界全体をひとつのシステムとして捉えるグローバル・マーケティングの視点から理論的に理解する能力とケーススタディを通じて養われるその実践能力。</p> <p>会計学研究コースでは、会計、法律、金融・経済を、世界全体をひとつのシステムとして捉える国際会計の視点から理論的に理解する能力と問題演習を通じて養われる公認会計士もしくは国際会計人(BATIC®コントローラーレベルあるいはU.S.CPA)になるのに必要な高度な専門能力。</p> <p>グローバル・ツーリズム研究コースでは、ツーリズム産業や地域創成の現場のマネジメントならびにマーケティングを、世界全体をひとつのシステムとして捉えるグローバル・ツーリズムの視点から理論的に理解する能力とケーススタディを通じて養われるその実践能力。</p> <p>スクール・マネジメント研究コースでは、非営利組織経営の一つとしての学校経営を、世界全体をひとつのシステムとして捉えるグローバル経営の視点から理論的に理解する能力と人的資本養成を目的適格的として実質的に実践する能力。</p>	<p>マネジメント研究科では各研究コースにおいて、グローバル時代のマネジメントを理論研究とケーススタディから学び、高度な専門知識と実践力を備えた次世代ビジネスリーダー、経営後継者、会計専門職、そして学校経営者等を育成するために以下のようなカリキュラム・ポリシーを定めます。</p> <p>グローバル・マーケティング研究コースでは、世界全体をひとつのシステムとして捉えるグローバル・マーケティングの知識を、経営戦略、中小企業経営、そしてマーケティングにわたる幅広い高度なマネジメント理論とケーススタディを通じた実践論から修得できるような教育課程を編成します。</p> <p>会計学研究コースでは、公認会計士もしくは国際会計人になるのに必要な専門性の高い会計、法律、金融・経済の知識を理論研究と問題演習から修得できるような教育課程を編成します。</p> <p>グローバル・ツーリズム研究コースでは、世界全体をひとつのシステムとして捉えるグローバル・ツーリズムの知識を、ツーリズム産業、地域創成の現場のマネジメントやマーケティングの理論とケーススタディを通じた実践論から修得できるような教育課程を編成します。</p> <p>スクール・マネジメント研究コースでは、非営利組織経営の一つとしての学校経営の知識を、グローバル経営の高度なマネジメント理論と学校法人会計、教学マネジメントなどの学校経営論とを統合して修得できる教育課程を編成します。</p>	<p>マネジメント研究科修士課程は、学士課程で学んだ経営学・会計学等の専門領域を深めさらに高い能力を備えた次世代ビジネスリーダー、経営後継者、会計専門職、そして学校経営者等を育成しています。このため以下の能力や意欲を備えた人の入学を望みます。</p> <p>学士課程で培った経営学・会計学等の基礎能力をもとに、各研究コースにおいて、グローバル・マーケティング、会計学、グローバル・ツーリズム、もしくはスクール・マネジメントの分野を自ら探究する研究意欲のある人、および高度専門職に必要な知識・能力の修得を目指す人。</p>

	人材養成等教育研究に係る目的	卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
<b>教育学研究科</b>	<p>教育学研究科は、本学創立の理念である全人教育の精神に基づき、全人的な陶冶を基本理念として、教育学的理論と教育的実践力の融合に努め、学部教育によって得た教育学的基礎能力を土台に、高度な専門的知識と実践的指導力を有する人材の養成を目的としている。</p> <p>教育学研究科修士課程においては、教育学的基礎能力を土台に、次のような研究者並びに高度専門職業人の養成を目指している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育諸科学における理論的研究を深め、教育学研究に貢献する研究者の養成。</li> <li>2. 教育学的基礎能力を土台に、初等教育領域における実践的な研究を通じて初等教育の改善に資する高度職業人の養成。</li> <li>3. 教育学的基礎能力を土台に、乳幼児教育領域における実践的な研究を通じて乳幼児教育の改善に資する高度職業人の養成。</li> <li>4. 教育学的基礎能力を土台に、IB(国際バカロレア)教育領域における実践的な研究を通じてIB(国際バカロレア)教育の改善に資する高度職業人の養成。</li> <li>5. 学校教育等における実務経験を土台に、教員養成課程において必要とされる実践的な研究を通じて教員養成課程の改善に資する高度職業人の養成。</li> </ol>	<p>教育学研究科のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、かつ修士論文または課題研究の成果の審査および最終試験に合格した人は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、修士(教育学)の学位を授与されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学研究の意義、目的、手法等を正しく理解し、自立した研究活動を行なうための基礎的な能力</li> <li>2. 教育実践及び教員養成課程の諸課題を発見し、課題を解決する能力</li> <li>3. 社会で必要とされる幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力</li> </ol>	<p>教育学研究科では、本学創立の理念である全人教育の精神に基づき、全人的な陶冶を基本理念として、学部教育によって得た教育学的基礎能力を土台に、高度な専門的知識と実践的指導力を有した人材を養成するため、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部教育によって得た教育学的基礎能力を土台に、教育諸科学における理論的研究を深める教育課程を編成する。</li> <li>2. 修士課程修了者として現代社会で必要とされる、幅広い教養、コミュニケーション能力、論理的思考力を培う教育課程を編成する。</li> <li>3. 社会における教育実践の諸課題を発見し、その課題の本質を追究し、問題解決へと導く力を培う教育課程を編成する。</li> <li>4. 研究の成果を修士論文および課題研究としてまとめるために、個別的かつ継続的な指導を行うことが可能な教育課程を編成する。</li> </ol>	<p>教育学研究科では、以下のような学力並びに意欲を有する人を受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本学教育学部を卒業した人</li> <li>2. 他大学において教育関連学部を卒業した人</li> <li>3. 上記1および2と同等の学力、基礎知識を有する人</li> <li>4. 上記1、2、3のいずれかに加えて、教育学研究並びに各教育領域と教員養成課程に係る実践的な研究に意欲を有する人、および教育に係る高度専門職に必要な知識・技能の修得を目指す人。</li> </ol>

	人材養成等教育研究に係る目的	卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
<b>教職大学院</b>	<p>教育学研究科教職専攻(教職大学院)においては、高度の専門的知識・技能を背景に優れた指導力を有する高度専門職業人としての教員を養成する。そのために必要となる複雑な現状を的確に分析理解するための理論研究の力量や、広い視野を持ち現場での実践に即した方策をたてる能力などを身につけさせることで、高い能力と優れた資質を有する小学校教員・中学校教員の養成を行うことを目的とする。また、そのための教育・研究を通して地域社会に貢献することを理念とする。</p> <p>本教職大学院では、ストレートマスターの学生と現職教員の学生とを対象として、以下のような小学校教員・中学校教員の養成を目指している。</p> <p>① 学部段階で教員としての基礎的・基本的な資質能力を修得した者の中から、さらに、より実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る小学校・中学校教員の養成</p> <p>② 教職経験を有する小学校・中学校の現職教員を対象に、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員として不可欠な、確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたリーダーシップを発揮できる中核となり得る小学校・中学校教員の養成</p>	<p>教職大学院では、本専攻のカリキュラムにおいて所定の単位(学校課題研究を含む)を修得し、修了判定において合格とされた者は、以下に掲げる基礎的な能力と実践的な能力を身につけていると判断され、教職修士の学位が授与されます。</p> <p><b>基礎的な能力</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 確かな授業力と総合的な人間力</li> <li>2) 学校現場の課題を見極めることのできる高度の理解力と診断力</li> <li>3) 具体的な課題解決策を策定する企画力</li> <li>4) 解決策を実際に試みるための実践的展開力</li> <li>5) 教育活動を客観的に追求する研究力</li> <li>6) 高度な専門的知識や上記資質能力を生かした他の教員等への指導力</li> </ol> <p><b>実践的な能力</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育を取り巻く環境が著しく変化する中での学校教育の役割や教育行政との関係を理解し、適切な教育経営を行うことができる実践的指導力</li> <li>2) インターネットの活用等多様な授業形態や指導方法で子どもたちを授業にひきつけ、授業を円滑かつ効果的に運営できる実践的指導力</li> <li>3) 学校の教育活動における道徳教育の意義や在り方を理解し、子どもたちと真正面から向き合っ心の問題を解決し得る実践的指導力</li> </ol>	<p>教職大学院では、本学創立の理念である全人教育の精神に基づき、高度な専門的な能力および優れた資質を有する高度専門職業人としての小学校・中学校教員を養成するために、専門職大学院としての教職大学院の設置の目的に即して、以下の科目群を設定します。</p> <p><b>基本科目群</b> 専門職大学院としての教職大学院に共通に設定される科目群</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 &lt;教育課程の編成及び実施に関する領域&gt;</li> <li>2 &lt;教科等の実践的な指導方法に関する領域&gt;</li> <li>3 &lt;生徒指導および教育相談に関する領域&gt;</li> <li>4 &lt;学級経営および学校経営に関する領域&gt;</li> <li>5 &lt;学校教育と教員の在り方に関する領域&gt;</li> </ol> <p><b>発展科目群</b> 「教育経営」「教育実践・教材開発」「指導が難しい子どもへの支援」「心の教育実践」の四つの専門的領域に応じて高度な知識を身につけ、実践的な課題への方策を考えることを可能にする科目群</p> <p><b>総合科目群</b> 学校での具体的な課題に即して自らの解決策を考え、論文にまとめる学校課題研究</p> <p><b>学校における実習</b> 学校において教育活動にあたりながら、実践的能力を総合的に高める実習</p>	<p>高度の専門的知識・技能を背景に、優れた指導力を有する高度の専門職業人としての教員の養成、という本学教職大学院の設立理念を実現させるために、次の4点を入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)として定めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教職に対する強い情熱や教育者としての使命感、子どもたちの成長・発達についての深い理解、子どもたちに対する愛情や責任感といった資質を有する方</li> <li>2) 学校現場が抱える今日的課題に対して、積極的に解決を図ろうとする意欲や意志を有する方</li> <li>3) 現職教員においては、学校や地域における指導的役割を担えるスクールリーダーになり得る方。学部新卒者においては、学部段階で教員としての基礎的・基本的な資質能力を修得し、教職大学院の学習を通して、新しい学校づくりの有力な一員となり得る方</li> <li>4) 本学の教育理念、本教職大学院の教育目標・内容・方法等を理解した上で入学を希望する方</li> </ol>

	人材養成等教育研究に係る目的	卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
脳科学研究科	<p>脳科学研究科は、全人的な人格の陶冶をその基本として、学術の進展と人類福祉の増進に寄与することを教育研究上の目的に、社会に生きる人間の心のはたらきを司る思考(知)、感情(情)、意思(意)などに関する高度な専門的知識の修得を通して、人間理解の学問研究を発展させることを教育理念としている。</p> <p>新たに設置する修士課程の心の科学専攻では、様々な学士課程教育を受けた大学院学生が、多様なバックグラウンドを基盤として、人間の心に関する工学分野をはじめ他分野にわたる専門的知識と実践能力を習得させることによって、現代社会を心身共に健全で豊かに生きるための基本となる能力を身に付けた人材を育成する。</p> <p>また、博士課程後期の脳科学専攻では、修士課程の教育研究分野を高度化し、心のはたらきの基盤となる脳型計算論研究、脳・神経科学際研究をとおして神経情報処理原理の理解と計算科学への応用を基礎に、心の発達、社会行動、コミュニケーション、心の哲学などの豊かな知識を統合した新たな心の科学の構築をめざす工学分野を中心に文理融合の観点から自立した研究を担う研究者、教育者、技術者を養成する。</p>	<p>心の科学専攻(修士課程) グローバル化や情報化、少子高齢化など日々変化し複雑化する現代社会において、脳科学の教育・研究を通して広く社会に貢献できる高度な知的素養を備えた人材を育成します。</p> <p>心の科学専攻(修士課程)のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出された修士論文が審査のうえ合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、修士(学術)または修士(工学)の学位が授与されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳の神経回路と物質的な基盤に基づいて心の働きを解明する神経科学研究、または心理学の観点に基づいて心の働きを解明する人間科学研究を担うとともに、その成果を用いて広く社会に貢献する能力(学位: 修士(学術))</li> <li>2. 脳の情報処理として人間の心の働きを解明する脳情報科学研究を担うとともに、その成果の工学応用を通じて社会に貢献する能力(学位: 修士(工学))</li> </ol> <p>脳科学専攻(博士課程後期) ヒトの情報創成のメカニズムを科学的に探究し人間の持つ豊かな心と社会を学際的な視点から研究する脳・神経学際研究または神経情報処理のしくみの理解とその計算科学への応用を目指す脳型計算論研究を担う創造性豊かな研究者、技術者を育成します。</p> <p>脳科学専攻(博士課程後期)のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出された博士論文が審査のうえ合格と判定された者は、以下に掲げる能力を身につけていると判断され、博士(学術)または博士(工学)の学位が授与されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間理解、思考・推論の脳機能理解を通してヒトの情報創成のメカニズムをさぐる脳・神経学際研究を自立して担うとともに、その成果を用いて広く社会に貢献する能力(学位: 博士(学術))。</li> <li>2. 神経活動の数理モデル化から神経情報処理のしくみの解明とその応用を目指す脳型計算論研究を自立して担うとともに、その成果の工学応用を通じて社会に貢献する能力(学位: 博士(工学))。</li> </ol>	<p>心の科学専攻(修士課程) 脳情報科学研究、神経科学研究、人間科学研究を進めるにいたる知識、技術をもった技術者、教育者、研究者養成を目指した教育を行います。具体的には、研究の基本的な方法を学ぶ「心の科学導入科目」、脳情報科学研究、神経科学研究、人間科学研究それぞれの研究分野に応じて専門性をより高めるために設定した「心の科学専門科目」、狭い範囲の研究領域のみならず、幅広く高度な知識、能力が身につけられるように設定した「心の科学関連科目」、データの解析から論文作成に至る研究の方法論を学ぶ「心の科学研究科目」の各科目群を設け、教育目標に応じた授業科目を体系的に配置します。</p> <p>脳科学専攻(博士課程後期) 国際的にも通用する、脳型計算論研究、脳・神経学際研究を進めるにいたる知識、技術をもった研究者・技術者養成を目指した教育を行います。具体的には、脳型計算論研究、脳・神経学際研究それぞれの研究分野に応じて専門性をより高めるために設定した「脳科学専門科目」、狭い範囲の研究領域のみならず、幅広く高度な知識、能力が身につけられるように設定した「脳科学関連科目」、研究計画の作成から論文作成に至る研究の方法論を学ぶ「脳科学研究法」の各科目群を設け、教育目標に応じた授業科目を体系的に配置します。</p>	<p>心の科学専攻(修士課程) 心理学や情報科学などの各研究領域で必要とされる基礎知識を有し、高度な専門知識の獲得とそれを応用して独創的な研究に取り組む意欲を持ち、さらには心の科学の発展と社会の要請に寄与する大いなる情熱を持った人物を求めます。</p> <p>脳科学専攻(博士課程後期) 脳科学の各研究領域で必要とされる基礎知識を有し、より高度な専門知識の獲得とそれを応用して独創的な研究に取り組む意欲を持ち、さらには脳科学の発展と社会の要請に寄与する大いなる情熱を持った人物を求めます。</p>